

## 2011年 学部内研究会・セミナーなどの活動

## 1. 環境科学セミナー

2010年度

第3回環境科学セミナー：琵琶湖研究特集その1

日 時：1月20日(木) 15時～17時

場 所：B0 会議室

報 告：奥田 昇（京都大学生態学研究センター）

「地球温暖化と陸水生物 ～温暖化に翻弄される琵琶湖固有種イサザ～」

槻木(加)玲美（愛媛大学上級研究員センター）

「琵琶湖の過去100年にわたる動植物プランクトン動態」

参加者：約20人

第4回環境科学セミナー：琵琶湖研究特集その2

日 時：1月28日(金) 13時10分～17時10分

場 所：B0 会議室

報 告：西田 継（山梨大学工学部）

「陸域での水質環境解析と同位体化学の応用」

芳賀弘和（鳥取大学農学部）

「森林源流域における降雨－流出応答と河川地形の解析

～物質流出特性の把握に向けて～」

参加者：約20人

2011年度

第1回環境科学セミナー：新任教員の研究紹介－その1

日 時：9月30日(金) 13時30分～16時30分

場 所：B0 棟会議室

報告者：西田隆義（環境生態学科）「繁殖干渉による分布とすみわけの統一的説明」

松本健一（環境政策・計画学科）「CGEモデルによる気候変動政策の分析」

皆川明子（生物資源管理学科）

「にぎわいにあふれた農村をめざして－水田と水管理と魚との関係」

参加者：30人

第2回環境科学セミナー：新任教員の研究紹介－その2

日 時：10月14日(金) 14時30分～16時30分

場 所：B0 棟会議室

報 告：原田英美子（生物資源管理学科）「重金属集積植物：機構解明とその応用」

尾坂兼一（環境生態学科）「陸域生態系における窒素動態に関する研究」

参加者：24人

## 2. 学生プロジェクト

「竹の会所」プロジェクト

滋賀県立大学以外の参加大学は、早稲田大学、神戸大学、宮城大学、京都橘大学、大阪芸術大学、上智大学、中央大学の、総計8大学であり、その他、社会人、地域の人達も多数参加（本学の学生は大学院生も含め、額田直子、西村匡弘、木村みなみ、澤修平、田中正紘、吉岡一弥、秋田珠希、阿部壮一郎、石丸翔一、田中孝宜、田中洋、鳴海友貴、松本洋太、村山里英、吉村紗央里、米田海視、小池真央、成尾建治、松井涼、松田雄樹、西出彩、大野宏、谷口雄飛、古屋雄大の24名で最多）

• ワークショップ

第1期：2011年9月9日～25日(上棟)

第2期：2011年10月15日～23日(竣工)

宮城県気仙沼市の津波で大被害を受けた集落において、津波で集会所を失った地域の方々のために地域住民の“憩い”の場となる施設「竹の会所」建設した。

9月から10月にかけて合計約30日間のワークショップを行い、自給自足のキャンプ生活を送りながら、地元で生育する竹約1000本を使用し、学生自らが全て自力で建設した。滋賀県立大学生24名をはじめ、早稲田大、神戸大、宮城大など全国から集まった大学生や社会人の有志、延べ70名余りが参加した。

10月23日の竣工披露では、地元子ども達が地域の伝統芸能「平磯虎舞（ひらいそとらまい）」を震災後の初めて披露してくれ、100名近い観衆が集まりにぎやかな会となった。演奏後は集まった子どもたちが竹のデッキを走り回ったり、寝転がったりする姿が印象的だった。

この施設は4年間の仮設建築物として建築許可を受けており、今後も今回のワークショップに参加した学生が主体となって、定期的に地域を訪れ、施設の維持管理や地域との交流活動を継続していく予定である。

### 3. 学生企画の講演会

2011年 環境建築デザイン学科「DANWASHITSU」

DANWASHITSU 特別企画：2011年5月11日(水)

「建築（を学ぶ学生）に何が可能か 東北大震災を受けて」

場所：環境科学部棟談話室1, 参加人数：約80名

DANWASHITSU 39th：2011年7月1日(金)

堀部安嗣「気持ちで考える」

場所：環境科学部棟B0会議室, 参加人数：約60名

DANWASHITSU 40th：2011年7月27日(水)

柳原照弘「世界で戦うということ」

場所：環境科学部棟B0会議室, 参加人数 約80名

DANWASHITSU 41th：2011年11月7日(月)

家成俊勝「「集団のクリエイティビティ」と「超日常」」

場所：環境科学部棟B0会議室, 参加人数：約70名

DANWASHITSU 42th：2011年11月18日(金)

寺田真理子「建築メディアの役割」

場所：環境科学部棟B0会議室, 参加人数：約60名